

基本項目	評価項目	自由民主党	公明党	立憲民主党	日本維新の会	国民民主党	日本共産党	れいわ新選組	参政党	社会民主党	日本保守党
①理念・ビジョン	ありたい国の姿（理念・ビジョン・将来像）が示されているか	△	△	△	△	△	○	△	△	△	△
	ありたい国の姿の根拠・着眼点が示されているか	ビジョンⅠ～Ⅲと示しているが、いずれも手法に近くビジョンとは言えない。どのような日本を目指しているか示されていない。	国内の課題は羅列されているが、どのような日本を創りたいかという視点は示されていない。	物価高対策など「守り抜く」というキャッチコピーを実現するために8つの政策を掲げているが、国のビジョンが示されていない。	社会保険料を下げるという事に着目していることはわかるが、そもそも、どのような国を創りたいのかが描かれていない。	党としての国の課題は書かれているが、国の将来像が示されていない。	単なる物価高騰対策だけでなく、その後「平和で希望が持てる新しい日本」というビジョンを掲げている。ただ抽象的。	党としての理念を語っている。しかし、ビジョンにまで至っていない。	党として考えている国の課題を挙げているが、国の将来ビジョンが描かれていない。	党首コメントのところに実現したい社会の事が少し書かれているが、どのような国を実現したいかまでは言及されていない。	党の方針は示されているが、国の将来像については示されていない。
②政策の体系的性・一貫性・独自性	ビジョン・方針・政策が体系化されているか	○	△	△	△	○	○	○	○	△	△
	相互に矛盾する内容が無定見に盛り込まれていないか	憲法改正など一貫して取り上げているテーマもあり独自性も伺えるが、そもそもビジョンが無いため全体の統一感はない。	国家のビジョンが無いため政策にメリハリがなく総花的になっている。	現在発生している問題に対する解決策が中心で、未来をどのように創っていくかという視点が伺えない。	維新と言えば身を切る改革が一丁目一番地であったはずだが、今回はそこは小さくなり社会保険料の引き下げを強調した内容になっている。	所得を上げるという一貫した目標に政策が紐づいている。国民の不満に対する政策が網羅されているが、ビジョンがないため全体の方向性がわかりづらい。	軍事費を抑制するなどして財源を確保し政策に充てるという方向性は一貫している。	大企業や富裕層の税率を高くするという独自の政策は伺える。	日本人ファーストというキャッチコピーを掲げ、その実現のための他党には無い独自の政策がある。	廃止する政策や増額する政策を掲げているが、そのことが国全体にどのような影響を及ぼすのか、体系立てられているとはいえない。	独自の政策は掲げられており他党との差別化も図られているが、それらが体系立てられたものとは言い難い。
③政策の具体性	政策の目標・期限・実現方法（工程）・財源などが明示されている	△	△	△	△	△	△	△	×	×	×
	達成度・成果の事後検証は可能か	5つのアクションでは、一部に具体的な数値も入っておりイメージしやすい。ただ、大半が「～します」という宣言に留まっている。	一部に目標数値が入っているが、全体的に「～を進めます」という掛け声で止まっており、具体的なイメージはしづらい。	物価高対策のところは具体的な数値が示されているが、その他は抽象的な表現で留まっている。	社会保険料を下げることは数値は入っているが、例えばベッド数をどのようにして減らすのか等の具体的な実現方法まではイメージできない。	部分的に数値目標はあるものの全体的には抽象的な表現に留まっている。	財源を創るための事項が表にまとめられているのはわかりやすいが、政権を握るしどのように実現させていくかという具体像をイメージできない。	部分的に数値目標は入っているため事後検証は可能であるが、どのように進めていくかは示されていない。	部分的に数値目標は示されているが、具体性に欠けるため事後検証可能とはいえない。	金額等の数値は入っているが、どのように進めていくのか、いつまでに等の具体性には欠ける。	政策の内容もスローガン的であり、具体的にどのように実現していくのかが示されていない。
④政策の実現可能性	目標・政策の実現可能性について、合理的な説明がされているか	△	△	△	×	×	×	×	△	×	×
	実行体制・実行プロセスは示されているか	「～する」等の表現に留まっており、少数と党の今、どのように実現していくのか示されていないので説得力に欠ける。	財源の根拠などが示されており、新たな財源を生み出すファンドについても、どのように実現するのか示されていない。	財源根拠は示されていない。政権と党ではないため、どのようにして実現するのか、その説明もない。	国会の過半数の承認をどのように得て行こうとしているのか示されていないため実現可能性は不明。	どのように実現するかは触られていない。政策実現のための過半数をどのように確保するかも不明確。	財源根拠は示されているが、本当にそれが実現できるのかどうかは未知数。また、少数政党としてどのように政策を実現していくのかが明記されていない。	少数政党として、どのように政策を実現していくのか、その方策は示されていない。	全都道府県に候補者を擁立するなど政権奪取に向けた気概を感じる。一方、政策の実行プロセス等は示されていないため実現可能性はイメージできない。	財源根拠だけでなく、少数政党として、どのように過半数を取り達成していくかが記載されていない。	独自の政策が目立つが、どのようにして実現していくのかが示されていない。
⑤市民起点度	読み手に取ってわかりやすい工夫はされているか	○	◎	△	△	△	○	△	△	△	△
	マニフェストの配布・周知の工夫はされているか	世代別で探す、政策別で探すなどの工夫がされており検索しやすい。また、都道府県ごとの政策集もあり地元課題への取組もわかりやすい。	10万件を超える政策立案アンケートを取るなどして若者の声を聴き、AIを活用するなどして、そこから政策へ展開していくなどの工夫が見られる。	8つの政策ごとにまとめるなど見やすさも工夫していたり、SNS等も活用し発信力も高めているが、国民との双方向でのやり取りは課題がある。	HPではAIを活用した意見集約と政策への反映を説明しているが、今回そのシステムが採用されているか不明。動画やSNS等での周知に工夫が見られる。	動画やSNS等での発信に工夫が見られる。また、党のHPも見やすさの工夫がされていて良い。	アンケート調査を基に意見の多かった不満に対する政策を検討してきている。	国民の声をどのように集約し政策にまとめてきたかは分かりづらいが、身近な言葉や表現でマニフェストを作成している点は善かった。	イラストや動画、SNS等の活用に工夫が見られる。	シンプルで見やすいが、国民の声をどのように吸い上げて作り上げたかについては不明確	党のHPや動画等も使用している。
満たしている ――― 満たしていない (20点) (0点)		総合点（100点満点換算） ◎20点/○10点/△5点/×0点	35	40	25	20	25	35	25	25	15
総合コメント		政権政党であるが、どのような国を目指しているのか、国の将来像が示されていない。国の将来像から政策の優先順位や財源の配分などが検討されるはずだが、それらが無いため内容に凹凸が無い。	若者世代を中心に意見を聴くシステムを導入し、その意見を政策へ反映させるプロセスを導入した点は素晴らしいが、そもそも国のビジョンが描かれていないため、最終的にどのような国を目指しているのかがわからない。	「物価高から守り抜く」というキャッチコピーはあるが、国のありたい姿が示されていない。また、どのようにして実現していくのか実現プロセスがイメージできない。	社会保険料引き下げの前に国の将来像を語り、その実現のために社会保険料を下げるという手法が1つあるという具合に描かれるとわかりやすくなるだろう。	国民の所得を上げるというフレーズはわかりやすく共感を得やすいだろう。しかし、国全体がどのような国へ向かおうとしているのか、その将来ビジョンが描かれていないため全体の方向性が生れていない。	ビジョンまでは行きついていないが、将来の国のイメージが表現されていた点は善かった。また、アンケート結果を基に政策の立案と説明がされているところはわかりやすかった。ただ、実現可能性が不明。	ビジョンは示されていないが、党のHPでは党の理念が語られており、党としての考え方がわかる。ただし、少数であるがゆえに、どのようにして政策を実現していくのかが示れないと言説力に欠ける。	他党には無い独自の政策があるが、そもそも国のありたい姿が示されていないため、場当たり的に映ってしまう。	シンプルでとても読みやすいマニフェストになっており、ミサイルより米という今の国民の関心事にも触れているが、キャッチフレーズだけでなくどのように実現していくのかを示してほしい。	党独自の政策を掲げているため他党との差別化がはかられやすいが、どのように実現していくのかについて選挙戦を通じて説明していただきたい。

総合コメント

あとから検証も評価もできない選挙の時だけの口約束（口約）ではなく、政権を獲得したら実行し、成果やプロセスを国民に共有する説明責任を果たすため、事後検証可能な要件を満たした公約のことをマニフェストと呼んでいる。マニフェストは「はっきり示す」という意味がある。

そのマニフェストで重要な要素は「ビジョン」である。日本がどのような国になれば良いと考えているのかという「国の将来像」（ありたい姿）を示すことが最初に求められる。ありたい姿を実現するためにどのような政策を講じていくのかということが示されていてほしい。

今回、ほとんどの政党に「ビジョン」を見つけることが出来なかった。政策のリストが並んでいるだけで、何故この政策を実施するのか、実施すると将来どうなるのか等の展望が見えないまま、耳障りの善い政策が並んでいる場合が多い。そして、財源根拠を示すわけでもなく、仕組みや構造、制度を変えるでもなく、現在あるものに微調整を重ねて実現させようと考えているようだ。選挙期間中には、ビジョンや政策実施の背景なども有権者へ届ける工夫をお願いしたい。

今回、「物価高対策」「減税策」が多くの政党で中心的な政策となっているが、有権者には、民間サービスが提供するwebサイトでの政党相性診断（ポートマッチ）等も活用し、「くらべてえらぶ」投票行動を期待したい。

むすびに、国民が喜びそうな目先の短期的な人気取りではなく、「苦い薬」も含んでこそ信頼できる約束としてのマニフェストは役割を果たす。その点でも、無責任な内容が並んでいると言わざるを得ない。加えて、苦い薬の必要性に共感し、マニフェストの実効性を求めていくことも「選ぶ側の責任」として、有権者の姿勢が変わっていく必要があることも指摘したい。

基本項目	評価項目	みんなでつくる党	日本改革党	無所属連合	再生の道	NHK党	チームみらい	日本誠真会
①理念・ビジョン	ありたい国の姿（理念・ビジョン・将来像）が示されているか	△	✕	△	△	△	○	△
	ありたい国の姿の根拠・着眼点が示されているか	理念や方針は党のHPからうかがえたが、どのような国を目指しているか等のビジョンは語られていない。	政治の方針やスローガンは示されているが、国のビジョンの記載はない。	党のHPに理念は書かれてあったが、国のビジョンは示されていない。	「国政に臨む基本方針」は示されている。目的と綱領の中で、教育に特化することが描かれた。	党としての問題意識は示されているが、国の将来像については描かれていない。	将来像、ミッション、ビジョンが示されている。	結党の想いや党の方針はHPで示されている。
	国家としての課題が捉えられているか							
②政策の体系性・一貫性・独自性	ビジョン・方針・政策が体系化されているか	✕	✕	✕	△	△	○	✕
	相互に矛盾する内容が無定見に盛り込まれていないか	特に記載なし	特に記載なし	特に記載なし	教育に特化している。	他党には無い独自の政策があるが、体系立てられているとは言えない。	現状の課題認識と発生要因の分析を示した後、政策を掲げている。また、AIを活用したテクノロジーを活用して新しい仕組みの構築を打ち出している。	特に具体的な政策は示されていない。
	独自の政策が示されているか							
③政策の具体性	政策の目標・期限・実現方法（工程）・財源などが明示されている	✕	✕	✕	✕	✕	○	✕
	達成度・成果の事後検証は可能か	特に記載なし	特に記載なし	特に記載なし	方針のみ	いつまでに、どのようにして等の具体的なことは記載されていない。	現状分析から政策を実施するポイント明らかにしているため具体的である。ただし、数値はあまり盛り込まれていないため、どこまでやるかなどは不明瞭。	特に具体的な政策は示されていない。
④政策の実現可能性	目標・政策の実現可能性について、合理的な説明がされているか	✕	✕	✕	✕	✕	△	✕
	実行体制・実行プロセスは示されているか	特に記載なし	特に記載なし	特に記載なし	特に記載なし	少数政党ゆえ、どのように実現していくのかが記載されておらず、イメージがでない。	全員が当選しても少数政党なため、国会の中でどのように勢力を作り、どのように政策実現まで結びつけるのかが不明。	特に具体的な政策は示されていない。
⑤市民起点度	読み手に取ってわかりやすい工夫はされているか	✕	△	✕	△	△	◎	✕
	マニフェストの配布・周知の工夫はされているか	特に記載なし	政策が1枚にまとまっていて読みやすい。	特に記載なし	教育に特化することで、わかりやすくなっている。	取り上げている政策が少ないため、読み手にとってはシンプルでわかりやすい。	国民の意見を吸収しながらマニフェストを更にバージョンアップして作成していく画期的な参画方法を導入。	特になし。
	策定過程において国民の提案を組み込むプロセスを有しているか							
総合コメント	総合点（100点満点換算） ◎20点/○10点/△5点/×0点	5	5	5	15	15	55	5
		党として未だ何も記載されていないためコメント不可能	政策が1枚あるが、何故その政策を取り上げたのか等の背景や理由、どのように実現していくのかのプロセスなどが説明されると善い。	特に記載されていないのでコメント不可能	まだ党の公式サイトでは具体的な政策の内容までは掲載されていない（7月1日時点）。	結党以来、変わらず掲げてきた政策を実現するための活動は国民の認知度も上がってきていると思われる。しかし、具体性や実現可能性、さらには、これが実現した後の社会がどうなっているのかの説明が十分ではない。	2024年都知事選挙で選挙期間中に有権者の意見をマニフェストにどんどん集約して政策を作り上げた仕組みを今回は国政選挙でも実施。アジャイル型マニフェストがどのように形作られるか注目している。	新しい団体のため、党の理念や方針を国民に認知してもらう工夫が期待される。

総合コメント
あとから検証も評価もできない選挙の時だけの口約束（口約）ではなく、政権を獲得したら実行し、成果やプロセスを国民に共有する説明責任を果たすため、事後検証可能な要件を満たした公約のことをマニフェストと呼んでいる。マニフェストは「はっきり示す」という意味がある。
そのマニフェストで重要な要素は「ビジョン」である。日本がどのような国になれば良いと考えているのかという「国の将来像」（ありたい姿）を示すことが最初に求められる。ありたい姿を実現するためにどのような政策を講じていくのかということが示されていてほしい。
今回、ほとんどの政党に「ビジョン」を見つけることが出来なかった。政策のリストが並んでいるだけで、何故この政策を実施するのか、実施すると将来どうなるのか等の展望が見えないまま、耳障りの善い政策が並んでいる場合が多い。そして、財源根拠を示すわけでもなく、仕組みや構造、制度を変えるでもなく、現在あるものに微調整を重ねて実現させようと考えているようだ。選挙期間中には、ビジョンや政策実施の背景なども有権者へ届ける工夫をお願いしたい。
今回、「物価高対策」「減税策」が多くの政党で中心的な政策となっているが、有権者には、民間サービスが提供するwebサイトでの政党相性診断（ポートマッチ）等も活用し、「くらべてえらぶ」投票行動を期待したい。
むすびに、国民が喜びそうな目先の短期的な人気取りではなく、「苦い薬」も含んでこそ信頼できる約束としてのマニフェストは役割を果たす。その点でも、無責任な内容が並んでいると言わざるを得ない。加えて、苦い薬の必要性に共感し、マニフェストの実効性を求めていくことも「選ぶ側の責任」として、有権者の姿勢が変わっていく必要があることも指摘したい。